

定植前 または 定植時	定植時	アクタラ粒剤5 (IRAC:4A)	植穴処理 1株当り2g	1回	ミカンキイロアザミウマ類 コナジラミ類、アブラムシ類 マメハモグリバエ類、コガネムシ類幼虫
着果促進対策(成りぐせ):トマトーンを50倍に希釈し、開花している花へ散布する。(1花房に1回)					

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前日数	10a 当り散布量	使用回数	IRACコード	FRACコード	対象病害虫	注意事項
月日	6月上旬	① 展着剤(まくぴか) ダントツ水溶剤 ダコニール 1000	前日まで 前日まで	150ℓ	3回以内 4回以内	4A	M5	コナジラミ類、ミナキイロアザミウマ、 テントウムシダマシ類、カメムシ類 ハモグリバエ類、アブラムシ類 灰色かび病、黒枯病 すすかび病、うどんこ病	
月日	6月中下旬	② 展着剤(まくぴか) ディアナSC ゲッター水和剤	前日まで 前日まで		2回以内 5回以内	5	10+1	オオタバコガ、ハスモンヨトウ コナジラミ類、アザミウマ類 ハモグリバエ類 灰色かび病、黒枯病 菌核病	① オオタバコガの越冬世代の発生時期になるため散布ムラがないよう散布する。 ②コナジラミ対策で粘着シート(黄色)を設置する場合は、1aあたり30枚を目安とする。
月日	7月上旬	③ 展着剤(まくぴか) アディオン乳剤 プロポーズ顆粒水和剤	前日まで 前日まで	200ℓ	3回以内 4回以内	3A	40+M5	アブラムシ類、オンシツコナジラミ カメムシ類、テントウムシダマシ類 褐色腐敗病、すすかび病	① 敷きワラ後はハダニの発生が増える事があります。管理作業の際に葉裏を良く確認する。 ②ハダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤(1,500倍)を加用する。
月日	7月中旬	④ 展着剤(まくぴか) コテツフロアブル	前日まで		4回以内	13		オオタバコガ、ハダニ類 ハスモンヨトウ、チャノホコリダニ ミナキイロアザミウマ、ヨウムシ ミカンキイロアザミウマ テントウムシダマシ類	①7月中旬～8月下旬まではオオタバコガの発生が特に多い時期になります。散布間隔に注意するとともに、死角がないように散布する。
月日	7月下旬	⑤ プレバソンフロアブル5 ベルコートフロアブル カネマイトフロアブル	前日まで 前日まで 前日まで	300ℓ	2回以内 3回以内 1回	28 20B	M7	オオタバコガ、ハスモンヨトウ ハモグリバエ類、褐紋病 灰色かび病、すすかび病 うどんこ病、黒枯病 ハダニ類、チャノホコリダニ	① 展着剤(まくぴか 10,000倍)を加えてもよい。
月日	8月上中旬	⑥ 展着剤(まくぴか) ダントツ水溶剤 コロマイト乳剤 ゲッター水和剤	前日まで 前日まで 前日まで		3回以内 2回以内 5回以内	4A 6	10+1	コナジラミ類、ミナキイロアザミウマ アブラムシ類、ハモグリバエ類 ハダニ類、チャノホコリダニ 灰色かび病、菌核病 黒枯病、褐紋病	① オオタバコガの発生が見られる場合、プレオフロアブル(1,000倍)を加用する。
月日	8月中下旬	⑦ 展着剤(まくぴか) ディアナSC ベルコートフロアブル	前日まで 前日まで		2回以内 3回以内	5	M7	オオタバコガ、アザミウマ類 ハスモンヨトウ、コナジラミ類 ハモグリバエ類、褐紋病 灰色かび病、すすかび病 うどんこ病、黒枯病	① 今回の散布でディアナSCの使用回数の上限に達する。
月日	9月上旬	⑧展着剤(まくぴか) プレバソンフロアブル5 トップジン M 水和剤	前日まで 前日まで		2回以内 5回以内	28	1	オオタバコガ、ハスモンヨトウ ハモグリバエ類、コナジラミ類 灰色かび病、菌核病 黒枯病	①アブラムシの発生が見られる場合、コルト顆粒水和剤(4,000倍)を加用する。
月日	9月中旬	⑨ 展着剤(まくぴか) コテツフロアブル モレスタン水和剤	前日まで 前日まで		4回以内 3回以内	13 UN	M10	オオタバコガ、ハダニ類 ハスモンヨトウ、チャノホコリダニ ミナキイロアザミウマ、ヨウムシ ミカンキイロアザミウマ テントウムシダマシ類、うどんこ病	①台風などで風雨による病害の感染が心配される場合はゲッター水和剤(1,000倍)を加用する。
月日	10月上旬	⑩ 展着剤(まくぴか) ダコニール1000	前日まで		4回以内		M5	灰色かび病、黒枯病 すすかび病、うどんこ病	① 気温が高くオオタバコガなどの虫害が心配される場合は、プレオフロアブル(1,000倍)を加用する。